

社会教育委員 だより



▲5月25日に長谷中学校の「長谷の縁側」に参加し、内藤とうがらしの植付け作業を行いました。

TOPIX

- 平成30年4月27日 第1回定例会（伊那市役所）を開催しました。
- 平成30年6月20日 長野県社会教育委員連絡協議会総会（長野県総合教育センター）に参加しました。
- 平成30年7月24日 諏訪・上伊那地区社会教育委員連絡協議会合同研修会（諏訪文化センター）に参加しました。
- 平成30年8月10日 第2回臨時会（高遠町図書館）を開催しました。
（会議後、社会教育委員発！我がまちいいところ10選研修視察2か所）
- 平成30年11月9日 上伊那社会教育関係者懇談会（生涯学習センター）に参加しました。
- 平成30年11月15/16日 関東甲信越静社会教育研究大会（ホクト文化ホール）に参加しました。
- 平成30年11月28日 第3回臨時会、伊那市教育委員との懇談会（防災コミュニティセンター）を開催しました。（会議前、社会教育委員発！我がまちいいところ10選研修視察2か所）
- 平成31年2月4日 上伊那地区社会教育委員研修会（南箕輪村民センター）に参加しました。
- 平成31年3月20日 第4回定例会（伊那市役所）を開催しました。



平成30年4月27日、第1回会議(伊那市役所)を開催しました。

委嘱式で社会教育委員に任命された10名です。

馬場 武志 会長 (伊那地区)
中村 幸子 副会長 (富県地区)
黒河内 あけみ 委員 (美篤地区)
宮原 晴美 委員 (手良地区)
高見 さゆり 委員 (東春近地区)
茅原 紘 委員 (西箕輪地区)
太田 伸 委員 (西春近地区)
寺田 利男 委員 (高遠町地区)
山崎 恭子 委員 (高遠町地区)
中山 惠理 委員 (長谷地区)

(任期：平成30年4月～平成32年3月まで)

新任委員からひとこと

【茅原 紘 委員】

地域にどのように溶け込んでいこうかと模索しているときに会ったのが社会教育委員でした。これから先、活動の中で新しい自分を発見しよう！という情熱が湧いてきたのです。先輩諸氏もきっとどんな風に自分なりの活動をすべきかを考えてこられたことと思います。

私たちのふるさと伊那市に溶け込むための一つの目標として「伊那市民憲章」に網羅されていることを胸に各種目的や条件に合わせたイベント等に参加したいと思います。

【太田 伸 委員】

今年度社会教育委員を拝命し、身震いの思いでいます。人が人として生涯を終える中で、いかに興味、好奇心(インタレスト)を持ち続ける事が大切な事として私は思っております。その好奇心を持ってもらえる事業をどれだけ実行できるかが課題であると考えます。今年度事業をひとつひとつできる限り、興行的であってもなくても市民の好奇心のアンテナに伝わる事業がどれだけあるのか？慣例に従いはタブーとして、各事業を考察させて頂き、委員としての職務を遂行させていただきます。

私は現役の会社員であり、視線は市民視線と違って発言させていただき、より市民が興味を持ってもらえる社会教育文化の向上の一助となる事ができればと思っています。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

【中山 惠理 委員】

夫の友達が3月末までの長谷の公民館長だった関係で、社会教育委員を引き受けることになった。何をするのか詳しいことも分からず、初めての会議に出席したが、こんなにもいろんなイベントや行事があるのかとびっくりした。

我が家は平成25年10月から旅館業法の簡易宿所の許可を受け、農家民泊を行っている。それも広い意味で社会教育の一環だと矢澤係長に言われ、なるほど、と思った。今後もそれを踏まえ社会教育委員として頑張っていきたい。

【宮原 晴美 委員】

社会教育委員の仕事をさせてもらってから一年が経とうとしています。

ご一緒させていただいた委員の皆様は、各地域での活躍、各分野でのお仕事を経験されてきた方々で、幅広い視野を持ち、教えていただくことばかりでした。

また、伊那市が取り組んでいる事業や公民館活動、研修や会議室等に出席させてもらい、自分が住んでいる伊那市を別の角度からも見る事が出来ました。伊那市の良さをあらためて感じさせてもらうとともに、市の発展や人々の豊かなくらしを目指して様々なことに取り組んでもらっているのだということを知り、委員としても、一住民としても感謝の気持ちを持ちました。

とても貴重な経験をさせてもらっていると思います。二年目もよろしくお願い致します。



我がまちのいいとこ 10 選研修視察

深く掘り下げて見る「目」を持つ活動として、各委員が地元の自然、歴史、文化など見てもらいたい場所を推薦し、現地へ視察に行っています。

見慣れた景色や建物が、解説を聞きあらためて伊那市の歴史や文化を感じ、学習する機会となっています。

○高遠町図書館



進徳館文庫、馬島家文庫等の古文書や貴重な資料を間近に手に取って見ることができました。

(伊那市高遠町)

○高遠ダム (高遠さくら発電所)



美和発電所で発電した水を、ここから取水する三峰川左右岸のかんがいと春近発電所で有効に利用するために、一時的に溜めて調整しています。この維持放流水を活用し、平成 29 年に発電所として本格稼働しました。発電した電気は、東京都世田谷区の保有園などで利用されているとのこと。近年「ダムカード」の人気により遠方から多くの人が見学にくるそうです。

(伊那市高遠町)

○「芋ノ田」の横井戸



農学部的前身である長野県農林専門学校が作られた地籍「芋ノ田」は農業の教育施設としては水が不足しており、明治期に総延長 720m の横井戸を掘り開田したとのことで、上伊那の扇状地の横井戸の中では比較的大規模です。写真は堅穴の跡をみんなで見学しています。土を盛った形跡のある穴や、陥没した穴に危険防止のため間伐した樹木を投げ込んだ跡もある穴などが見られました。(南箕輪村：信大農学部キャンパス内)

○旧西春近中学校 (現；伊那西高等学校)

戦後、教育基本法が制定され小学校 6 年、中学校 3 年の義務教育が始まった時期に建てられた中学校で、当時の西春近村民が総出で建設工事を行ったそうです。現在も校舎から見下ろす位置にある校庭は当時造成されたそのまま使われており、その斜面に積み上げられた石積みも当時の姿で残され、周辺に植えられている桜の木もその時に植えられたものということで、今も春になると満開の桜で高校生たちを迎えています。

春富中学校の開校により、わずか 18 年でその役目を終えてしまったわけですが、その後現在の伊那西高等学校に至るまで、教育の場として当時の西春近村民が作り上げたものを、今に伝えています。

(伊那市西春近)

生涯学習関係イベント等参加報告

社会教育委員の取組の1つ、現場へ「足」を運ぶ活動として、生涯学習関係イベントへ参加して、感想や良かった点、問題点や課題等を報告書にまとめ、社会教育委員会議で発表し、委員間での意識共有を図っています。第3回の会議までに80件以上の参加報告がありました。

いくつかご紹介します。



○中尾歌舞伎春季公演

中尾歌舞伎が復活してとてもうれしく思い公演に行った。前座で上演された長谷小学校4年生の「孝行猿」もその後の話まで調べてストーリーを完成させていてすばらしかった。中尾座のみなさんも仕事を持ちながらこれだけの舞台を作ることは練習など大変かと思うが、定期公演を今後とも是非続けてほしい。

○高遠町桜大学

保科正之公を祀る土津神社（猪苗代町）の境内にある巨大な石碑に刻まれている漢文には何が書かれているのか。全文を読み下した資料をもとに丁寧に解説をいただき、保科氏の生涯、生い立ち経歴、会津における諸政策等が詳細に書かれていることに感動した。

○宇宙の学校

創造館で今年度新しいメンバーでのスタートとなった第1回。熱気球作りはグループごとに協力しながら子ども中心に穴が開かないよう頑張って作っていた。ドライヤーという身近な熱で気球が飛ぶというのが手軽で、「家でもやってみよう」という気持ちになったと思う。

○夏休みおいで塾

夏休みの5日間、小学校高学年の児童を班長として班ごとのグループで仲良く助け合いながら活動をしていたのがとても印象的だった。地域の

子ども達が学区を越えて友達同士になれる良い機会になると思う。

地域のボランティアの方々との協力もありがたいことだと思った。

○カレーフェス in 長谷中学校

オープニングを飾った中学生の太鼓の演奏も勇壮で、会場には地域の方々から遠方のお客さんまでいっぱいとても賑わっていた。中学生の笑顔による対応と、汗だくになって裏方を担う職員の先生方がとても印象的だった。長谷の魅力が大いに発信されたイベントだった。

○老松場古墳群調査結果現地説明会

小雨の降る日だったが、100人近くの参加者がいて驚いた。小学生が古墳を測量し、前方後円墳の可能性が出てきたというのがすごい。創造館の企画であったが関西大学の学生さんから発掘した状況等を直に聞くことができるなど、企画力でこれだけの人が訪れたのでないだろうか。

○農家民泊受け入れ農家の見学

東京都新宿区の小学6年生3名が2泊3日の日程で来ていた。畑で野菜の収穫をし、ホロホロ鳥の餌やりや稲刈りの準備などの農業体験を、土も触ったことのないような都会の子たちが、汗をかき、休む間もなく真剣に行っていた。長谷の山間地で美しい自然と共に経験したことは大変貴重なことだと思う。できれば地域の同じ年代の子ども達がいっしょになって関わると相互の地域交流が生まれるのではないかと思った。

○ふるさと景観ウォッチング

公民館をスタートし、地域の名所を順番に回った。地域の自然、歴史、文化に触れる素晴らしい企画だった。市のバスで搬送してもらえたので、高齢者の方も参加しやすくありがたかった。参加者同士の意見交換の時間も設けられ、地域に埋もれた文化財を見出すきっかけになった。

第49回関東甲信越静社会教育大会 長野県大会への参加及び事例発表

平成30年11月15日・16日、今年度、本大会が長野県開催ということもあり、各県より1000人あまりの参加者が長野市にあるホクト文化ホールに集まる中、伊那市からも多くの社会教育委員が参加をしてきました。

その中でも分科会テーマ「福祉教育と社会教育のあり方」では伊那市の馬場会長が『長谷の縁側』について社会福祉協議会の職員と共に事例発表を行いました。



▲社会福祉協議会・矢澤秀樹係長(左)と馬場会長

分科会：《福祉教育と社会教育》

テーマ 福祉教育と社会教育のあり方

～普段の暮らしの幸せをどのように地域で実現していけがいかについて考える～

このようなテーマで分科会が持たれたことは今までになく、福祉教育と関わった事例発表は初めてのことで、ということで、社会福祉協議会の矢澤秀樹係長にもお手伝いをいただき、伊那市で行っている「イベント参加報告書」の取り組みと具体例として社会福祉協議会が行っている「まちの縁側づくり事業」のひとつ「長谷の縁側」について発表しました。



▲「内藤とうがらし」を紹介する矢澤秀樹係長

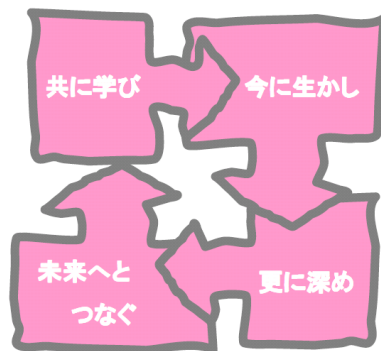
長谷中学校を中心に「内藤とうがらし」というキーワードから地域福祉課題に取り組み、自分達の地域の特性を活かした活動考えて実践したのが「長谷の縁側」です。学校との協働では学校職員や生徒に負担がかからないよう社会福祉協議会で調整を行い、保小中の取り組みを維持しながら、全体を組織。そんな中で社会教育委員はどのような立場でいいののかということ、学校の先生の弱み、社協の弱みそれぞれをカバーしお互いを繋ぐ役割が社会教育委員であるとのことでした。

生成としての教育＝「生きていること自体に価値があることを学ぶ」それが人権教育であり、福祉教育であり、このことを伝えるのが社会教育委員である、ということを確認した分科会でした。



馬場会長、お疲れ様でした！





伊那市社会教育委員だより

編集・発行 伊那市教育委員会生涯学習課 〒396-8617 伊那市下新田 3050 番地

電話：0265-78-4111（内線 2723） F A X：0265-72-4142

Eメール：sgs@inacity.jp

お問い合わせなどはこちらへ

